

県では誰もが参画・活躍できるダイバーシティ社会をめざし、多様な価値観を認め合い、ダイバーシティをプラスと捉える機会づくりとして、気づき合う講座「ダイバーシティ・スイッチ2025」を開催しました。

今年度はダイバーシティを「自分ごと」と捉えてもらうために「見る」「触る」「聴く」など五感を使った体験や対話などを通して学ぶ講座を開催しました。

第1回

夜の美術館で体感する、多様性とのやさしい付き合い方

閉館後に作品鑑賞とワークショップができる特別な時間

日時 令和7年12月20日(土) 18:00~20:30

場所 三重県立美術館(津市大谷町11)

講師 岡崎大輔氏(を、編む代表/関係性と組織づくりの専門家)

閉館後の三重県立美術館を会場とし、常設展示室での作品鑑賞と対話を通じて、日頃のコミュニケーションに新たな一歩が生まれるような体験型のワークショップを実施しました。産官学民から所属や活動もさまざまな35名が参加しました。



第2回

さわる手、つくる手、つながる手

触覚をつかって世界を再認識・再創造するワークショップ

日時 令和8年1月18日(日)

午前の部 10:00~12:00

午後の部 13:30~15:30

場所 松阪公民館 講座室1(松阪市船江町1392-27)

講師 広瀬浩二郎氏(国立民族学博物館 教授)

触覚をつかった体験を通じて、感じ方の違いに気づき、多様性への理解を深める講座を開催し、小中学生42名が参加しました。



第3回

聴くから始めるコミュニケーション

多様性の時代に企業価値を高める「聴く技術」

日時 令和8年2月18日(水) 13:30~15:30

場所 三重県教育文化会館(津市桜橋2-142)

講師 櫻井将氏(エール株式会社 代表取締役)

組織の中で多様性が重視される時代において、一人ひとりの個性や考え方に耳を傾けることが必要とされる中、「聴く」と「伝える」のスキルを実践的に学び、多様性への理解を深める講座を開催しました。県内の事業者を中心に28名が参加しました。



第1回 夜の美術館で体感する、多様性とのやさしい付き合い方

第1回目では作品鑑賞と対話のワークショップを実施しました。まずはそれぞれが三重県立美術館の常設展を鑑賞し「いまの自分の状況や気持ちを表すのにぴったり（一番近い）と考えた作品」を選びました。その後4人程度のグループに分かれて、メンバーの選んだ絵を鑑賞し、その人がその作品を選んだ理由を想像したり、たずねたり、伝え合ったりしました。その後、ワークの体験を手がかりにお互いに尊重し合う関係を築くためのヒントを考えました。

【感想】

- 年齢、性別、関わる人間関係、気持ちによって絵に関するコメント、感じ取るイメージ、印象も異なっていることが面白かった。
- 相手のことを想像することの大切さを改めて感じた。
- 解決する／できると考えるより、対話を続ける大切さに気づいた。



第2回 さわる手、つくる手、つながる手

第2回目では、全盲の講師からご自身の経験を聞き、視覚を使わずに触る体験を通して、多様性に気づく講座を実施しました。アイマスクで目隠しをして、前半は世界各国のおもちゃ・楽器などに触れて、見えないなかで想像したことを伝え合うワーク、後半は野菜や果物を触り、その感覚をもとに粘土で作品をつくり、最後に感じたことなどを共有しました。

【感想】

- 「見えない世界」を体験して初めてこういう世界があることが知った。
- 体験をしてみて、目の見えない人はどのように過ごしているのか、どのような気持ちなのかなどを感じることができた。
- 今日初めて習ったことをいろんな人に伝えたいと思った。
- いつも目にたよらず、ほかのところで分かることもいいと思った。



第3回 聴くから始めるコミュニケーション

第3回目では、「聴く」とは何か、適切に聴くために大切なポイントについて学びました。講師からは「聞く」と「聴く」の違いは、聞き手の解釈が含まれるかどうかにあるとされ、これらの違いを理解した上で、自身がどちらの「きく」を行っているのか、場面に応じてどちらが適しているのかを考えることの重要性が示されました。後半では、「聴くこと」と「伝えること（フィードバック）」を両立するための具体的な手法についても紹介されました。

【感想】

- 聴くことは多様性の理解をすることだとわかった。
- 仕事上、様々な意見を聞くことがあるので、その人の関心事と一緒に考えていきたい。これまでは聴くことが足りていなかったと感じた。

